

社会教育委員会 会議概要

- | | | |
|---|-----------|--|
| 1 | 審議会名 | 第4期第3回社会教育委員会 |
| 2 | 日時 | 平成25年1月25日 午後2時から午後5時まで |
| 3 | 会場 | 中央公民館 第1会議室 |
| 4 | 出席者 | 安井幸次委員 清水幾子委員 樋口克彦委員 西田力委員 竹田貴一委員
磐山永子委員 関和幸委員 山浦美幸委員 |
| 5 | 市側出席者 | 神林中央公民館長、山崎西部公民館長、池田城南公民館長、坪田上野が丘公民館長、倉澤塩田公民館長、綿内川西公民館長、児玉丸子公民館長、藤沢真田公民館長、掛川武石公民館長、浅野生涯学習課長、宮澤生涯学習係長、中村生涯学習係主査、伴青少年育成指導員 |
| 6 | 公開・非公開等の別 | 公開 |
| 7 | 傍聴者 | 0人 記者 0人 |
| 8 | 会議概要作成年月日 | 25年 1月29日 |

協議事項等

- | | |
|---------|---|
| 1 | 開 会 |
| 2 | あいさつ |
| 3 | 公民館長との懇談 |
| (1) | 各公民館における24年度重点事業について |
| (2) | 各公民館における学社連携事業の内容と課題について |
| (3) | 各公民館が抱える課題について |
| | 昨年8月に教育委員長宛に出された社会教育委員の「提言書」の内容及び上田市の学社連携の取り組みについて、生涯学習課長が説明。 |
| (1)~(3) | 各館の状況について公民館長がそれぞれ説明。 |
| (委員) | 分館活動についてどう考えるか。一年で役員が変わってしまうことが多く、事業がマンネリ化している。分館の重要性、役割を全面に出して、分館が前向きに動いてくれれば、地域活動がより深まると思う。 |
| (館長) | 上田市は分館数が多く、どの分館でも本館と同じようなことを小さな単位で行っている。地域活動につながる人材がかなりいる。本館とのタイアップができるとよい。 |
| (委員) | 丸子地域は、26自治会に対し、40分館あるというが。 |
| (館長) | 自治会と分館が同じところもあるが、地域性によって、それぞれの取り組み方をしている。 |
| (委員) | 定員を上回るくらいの人気のある事業が分館でもできないか。また、分館へも「学社連携」について、周知してほしい。子どもに一番身近な地域で活動ができればよい。 |
| (館長) | 子どものいない分館もある。自治会に加入しないという悩みもある中で、いまだに青年団が子どもの勉強を支えている地域もある。子どもが歩いて通える分館に子どもを集め、活動するのが理想。 |
| (館長) | 分館役員の研修会の際、公民館の想いや方針を伝えるとともに、何でも相談してほしいと伝えている。 |
| (館長) | 学社連携、学校の要望がないところには入っていきづらい。 |
| (委員) | 公民館はいかに人とのつながりをもっているか、地域の人をどれだけ知っているか、その数が多いほど連携が進む。公民館は地域によって違う。公民館について審議するのは、公民館運営審議会。共通で全体に広めることも大事だが、取り組みがこれからのところも深まっているところも、先生とのつながりを深めていく中で生まれていくこともある。公民館の方から学校へ声かけてもいいと思う。 |
| (館長) | 今年から校長会へ行って、学校と公民館の年間計画がだぶらないようにしている。 |
| (館長) | 公民館で例年行っている「学社連携会議」の中で、グループを分けて話し合った。ざっくばらんな話し合いの中で、中学の環境整備支援、小学校の学習支援の要望があり、公民館として全面的に協力している。 |
| (館長) | 県が行っている学社連携フォーラムに、今年は多くの教諭が参加した(平日開催に変更、校長会での働きかけ有り)。いままでこのような会があることを知らなかったという教員の声もあった。大事なことが、担当の教諭まで伝わっていないことがある。校内での資料配布や意見交換も大事。 |

- (委員) 地域講師が学校に入っていくことは「学社連携」とはいいきれない。本当の意味で、「家庭・学校地域が子どもと一緒に育てよう」と始まるもの。地域に知ってもらうために、学区の自治会へ学校だよりを配付してもらっている。学校のホームページもあるが、子どもがいない家は、ホームページをみない。今やっていることをベースにしながら、地域の特性を生かす、地域の宝である子どもを互いにわかりあって育てようとするのが大事。
- (館長) 学校を知ることが必要。学校がどんな思いで運営しているのか、特別な機会をつくる必要がある。
- (館長) 先生、生徒、PTA、地域の本音を聞く機会はある。
- (委員) これから特に地域性が大事。本館、分館が話し合いの場を持って、地域の分館を有効的に機能させる必要がある。
- (館長) 分館がしっかりしていると、子ども達を支える体制はある。本館と分館、公民館と学校の交流は大事。それぞれさまざまな活動、工夫がされている。学校が動いているのが見えると地域も応援したいと変わってくる。共通のテーマを持っていると地域力が上がっていくと思う。
- (委員) 地元で 25 年前に大変だからと、運動会をやめてしまった。一度断ち切られた行事を復活することは難しい。大変でも、地域にとって大事な活動は続けていく必要がある。
- (委員) 今後も、公民館と社会教育委員の定期的な意見交換を続けていきたい。発達障害児にかかわりたいがどうしたらいいかという課題に対して、地域の学校支援のボランティア研修に長野大学の高木先生に声をかけてほしい。

4 その他

(事務局)

- ・「人権に関する市民意識調査」報告書について
- ・生涯学習シンポジウムの開催について
- ・上小社教委連会報 25 号について
- ・第 55 回全国社会教育研究大会について
- ・「笠原工業常田館製糸場」国指定重要文化財のパンフレットについて